

# CONCIERGE

by Mochimaru shokuhin Co.,Ltd. 3/Oct/2016/vol.415

## カキドオシ Alehoof

「カキドオシ」は垣通(かきどおし)と書くこともあって、それは茎が蔓状に長く伸びて節から根を下ろしながら伸びて垣根を突き抜けていくことから。そのほかにもその葉の形状がまるで金(銭)のようにつながっているから連銭草(れんせんそう)、他には昔から身近に生えている生薬、子供のかんを取り除く薬としても使われていたという疳取草(かんとりそう)という名前など、「カキドオシ」は昔から日本で身近に生えていて親しみのあるものでした。改めて一つ一つの葉を丁寧にみていると、その形状のかわいらしさ、強さ、繊細さをも感じさせる凛とした美しい印象があります。実は「カキドオシ」は、ヨーロッパでも古くから民間薬、ハーブ茶として親しまれてきました。日本でも生薬としてだけでなく、柔らかい葉や花を摘んで、かき揚げや天ぷらなどに用いられてきました。青掻敷として和風の使い方をしても好評です。洋食にしても少し独特の風味の、野趣のあるサラダとして使われています。トッピングや飾りとしての使い方も楽しい「カキドオシ」。美しいフリルのついたようなハート形の葉が特徴です。